

講義名	対)スポーツ科学演習 B（レクリエーション/テニス）				
担当教員	与那覇 秀勲				
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限		授業形態	演習	
履修開始年次	2年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
超高齢社会を迎える中で、生涯にわたる運動・スポーツの実践の重要性が高まっている。本授業では、気軽に楽しむことのできるレクリエーション種目の実践や、テニスの技術・戦術の向上を図るとともに、仲間との連携やコミュニケーションの促進により、運動・スポーツの本質的な要素である「楽しみ」を追究し、ライフステージに応じたスポーツ実践の礎とする。					
到達目標					
1．「健康」獲得の方法を修得できるようになる。 2．歴史やルール、応用技術・基本戦術を理解し、説明できるようになる。 3．応用技術・基本戦術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。 *オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。 ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学習などによって対応する。					
提出課題					
健康・スポーツに関するレポート課題を課す。具体的な内容は授業中に指示する。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
レポート課題は評価のうえ返却を行う。					
評価の基準					
授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。 授業中の評価：受講態度・実技点など.....80％ 中間期の評価：レポート課題.....10％ 期末期の評価：レポート提出.....10％					
履修にあたっての注意・助言他					
対面授業をもとに授業計画を進行するため、実技を伴う活動が求められる。実技を通して、各自が課題をみつけ向上していくことを基本とする。よって、この授業において求められることは、「健康」の獲得と実技を通して「スポーツの礎」とすることである。それらを実践するための体調を整え、向上していく姿勢が求められる。 ・授業には、運動に適した服装及びシューズを着用すること。 ・テニスコートでは、テニスシューズもしくは靴底が平らな運動靴のみ着用を認める。 ・天候によって授業計画を変更する場合がある。 ・授業計画は学習内容をより充実させるために、受講者の技術度、習得度に応じて変更することがある。 ・授業前・後は必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。					

教科書				
プリント資料及び参考文献				
資料：適宜プリントを配布します。 参考テキスト：（公財）日本テニス協会「テニス指導教本Vol.1」				
授業計画				
1．ガイダンス 2．アルティメット（ルール説明、ディスクの投げ方） 3．アルティメット（個人練習、チーム戦術練習） 4．アルティメット（ゲームを中心とした実践） 5．グートボール（ルール説明、基本動作の練習） 6．グートボール（タッチ・スバークの技術習得と戦術理解） 7．グートボール（ゲームを中心とした実践） 8．生涯スポーツの実践に向けて 9．テニス（ショットラリー、ストレートラリー） 10．テニス（ボレー、スマッシュ） 11．テニス（サーブ、ミニゲーム） 12．テニス（シングルス戦術理解） 13．テニス（個人練習を通じてストロングポイント、ウィークポイントの強化、シングルス戦術のリーグ戦） 14．テニス（シングルス戦術のリーグ戦） 15．まとめ				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A・L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
予習：各回のシラバスを参照し、予め授業内容について書籍やインターネットを用い調べる。（各回2時間） 復習：各回の授業内容を踏まえたうえで、自主練習を通して技術の向上や戦術の理解を深める。（各回1.5時間） レポート作成（8時間）				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。 集団や個人でスポーツ実践へ取り組み中で、明るく元気で、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかりと言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「ネアカ」のびのび「こたれず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を発見し、自らが進んで取り始めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組みることにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。 以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
実務経験の有無及び活用				
備考				